

2014 年 1 月 24 日

宇都宮けんじ 様
ドクター・中松 様
田母神としお 様
ますぞえ要一 様
細川護熙 様

日本野鳥の会東京 代表 川沢 祥三
公益財団法人日本野鳥の会 理事長 佐藤 仁志
メール：office@yacho-tokyo.org
ファックス：03-5273-5142
ホームページ：<http://tokyo-birders.way-nifty.com/>

公開質問状「東京五輪の葛西臨海公園カヌースラローム競技場に関するご回答のお願い」

時下、ますますご清祥のことと存じます。

貴職におかれましては首都東京の発展に向けてご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、2020 年オリンピックの東京開催が決定し、この 2 月には組織委員会が立ち上げられ、新たな組織で準備が進められようとしています。その一つとして、江戸川区の葛西臨海公園ではカヌースラローム競技場整備が計画され、大きな施設が造られようとしています。

ところで、ご承知の通り都内は高度な開発が進み、昔ながらの自然はほとんど残っていません。そのような中、葛西臨海公園は昭和 50 年代の葛西沖開発土地区画整理事業に伴って都が整備した人工の緑地ですが、30 年以上の月日を経て、今では多くの木々が繁茂し、野鳥はもとより、多くの昆虫や両生類等も姿を見せるなど、都心にありながらも自然を満喫できるスポットとして、年間 300 万人以上もの来園者を迎えるまでになりました。

公表されている競技場整備計画によれば、7～9m の高さから 300m の長さを毎秒 10～16 トンの水が流れ下る人工の川と、その流れを支える大きな貯水池がスタート地点・ゴール地点に、さらには流れた水を元にポンプアップする大きな動力を持った施設などが造られるとされています。ところが、これらの整備予定地は葛西臨海公園の中でも最も多様な動植物が生息するエリアであり、もし計画通りに整備が進めば、都心にほど近い貴重な緑と動植物が大きく損なわれてしまいます。

このため、私たちは 2012 年 8 月、招致委員会・都知事あてに整備計画地変更の要望書を提出し、それ以降、「葛西臨海公園以外に適当な候補地はないか」等、7 回にわたり都招致委事務局等と協議を重ねてきました。

私たち「日本野鳥の会東京」「公益財団法人日本野鳥の会」に結集する会員は、2020 年オリンピックの東京開催に反対するものではなく、IOC の精神にもあるような環境と調和した開催を支持するものです。ついては、この IOC の開催理念からみて、臨海公園でのカヌー競技場整備計画が果たして適切なのかどうか、同公園でのカヌー競技場整備計画の見直しの可否等について、都政のトップを目指される貴職のご意見をぜひお聞かせいただきたく、よろしくお願いいたします。

記

1. 質問事項及び回答欄 別紙のとおり
2. 回答期限・回答先 1月29日までに当会担当者までFAXでご回答くださいますよう、よろしくお願い致します。

この質問状は「日本野鳥の会東京」3,000人、「公益財団法人日本野鳥の会」50,000人と、私たちの取組・要望書に支持を寄せてくださった全国133（1/18現在）の団体の皆様の熱意を背景として、1月24日時点で選挙事務所のFAX連絡先を知ることができた5名の候補者に送付しております。質問事項とご回答内容を当会のホームページで公開するとともに、マスコミにも告知させていただく予定です。

以上